OpenOLAP ユーザーマニュアル

R 1.0.0

2004 年 2 月

OpenOLAP ユーザーマニュアル

R 1.0.0

商標

OpenOLAP は、アイエイエフコンサルティングの商標です。
その他、本書に記載されている社名および商品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

なお、本文中には TM、® マークは明記しておりません。

目次

1 OpenOLAP Viewer の概要 1
1.1 OpenOLAP Viewer の機能 2
1.1.1 レポートの作成 2
1.1.2 レポートの閲覧 3
1.1.3 フォルダ、レポートの管理 3
1.2 OpenOLAP Viewer の画面構成 4
1.2.1 OpenOLAP Viewer の画面構成 4
1.2.2 ツールバー 4
1.2.3 ビュー 5
1.2.4 使用できない文字列 5

2 起動と終了 7
2.1 OpenOLAP Viewer へのログイン 8
2.2 OpenOLAP Viewer からのログアウト 9

3 レポートの参照 11
3.1 レポートの参照 12
3.2 ディメンションの操作 13
3.2.1 ディメンションの入れ替え 13
3.2.2 ディメンションの移動 14
3.3 ドリル操作 15
3.3.1 ドリルダウン 15
3.3.2 ドリルアップ 15
3.4 セレクタの利用 16
3.4.1 ディメンションのメンバー選択 16
3.4.1.1 リストからメンバーを選択する 16
3.4.1.2 レベルでメンバーを選択する 19
3.4.1.3 マッチするメンバーを選択する 23
3.4.2 メジャーの選択 27
3.5 データセルの色設定 30
3.6 幅、高さの調整 32
3.6.1 列の幅を調整する 32
3.6.2 行の高さを調整する 32
3.7 エクスポート 33

1

OpenOLAP Viewer の概要

OpenOLAP Viewer は OpenOLAP Designer で生成されたキューブを対象とした強力なレポーティングツールです。ビジネスインテリジェンスを導き出すまでの過程、多次元データ分析やデータ検索を OpenOLAP Viewer は強力にバックアップします。この章では、OpenOLAP Viewer の機能と画面構成をご紹介します。

この章は以下のとおり構成されています。

- OpenOLAP Viewer の機能
- OpenOLAP Viewer の画面構成

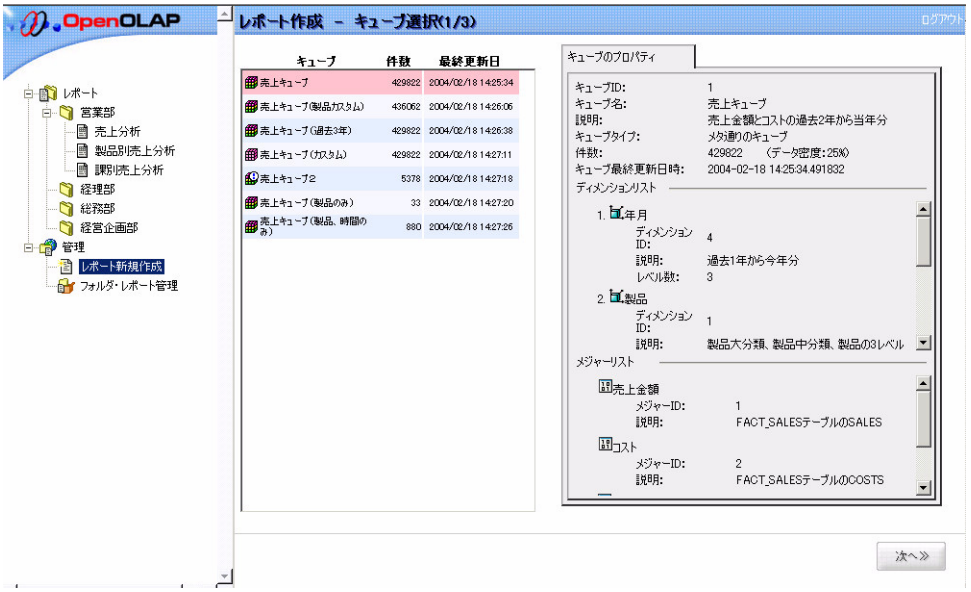
1.1 OpenOLAP Viewer の機能

OpenOLAP Viewer はインターネットブラウザを用意だけで、エンドユーザーは多次元データベースの分析レポートを閲覧することができます。

OpenOLAP Viewer の主な機能は以下のとおりです。

1.1.1 レポートの作成

OpenOLAP Designer で生成されたキューブを元にして、システム管理者はクロステーブル形式のレポートを作成できます。

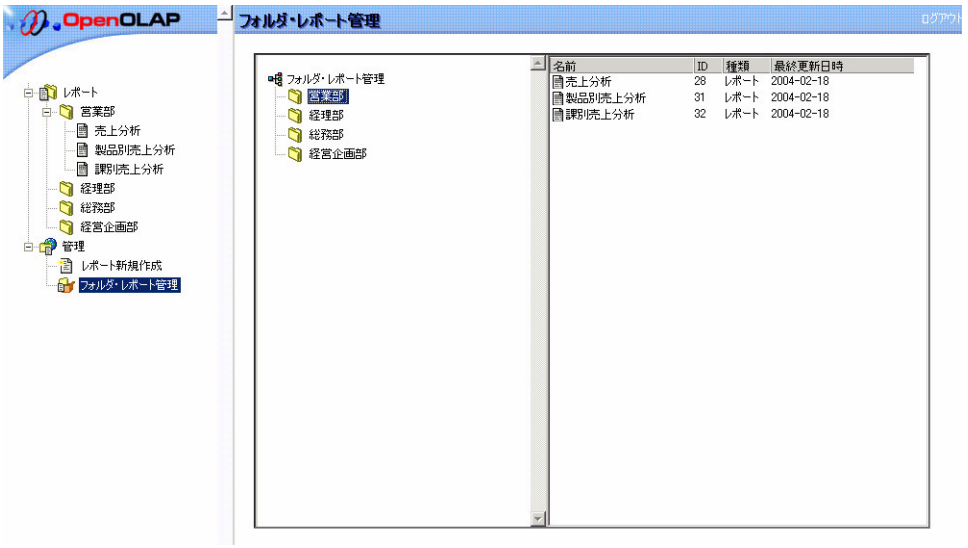


1.1.2　レポートの閲覧

システム管理者が作成したレポートをエンドユーザーはブラウザから閲覧することができます。また、システム管理者は既存のレポートの設定を変更して保存することができます。

1.1.3　フォルダ、レポートの管理

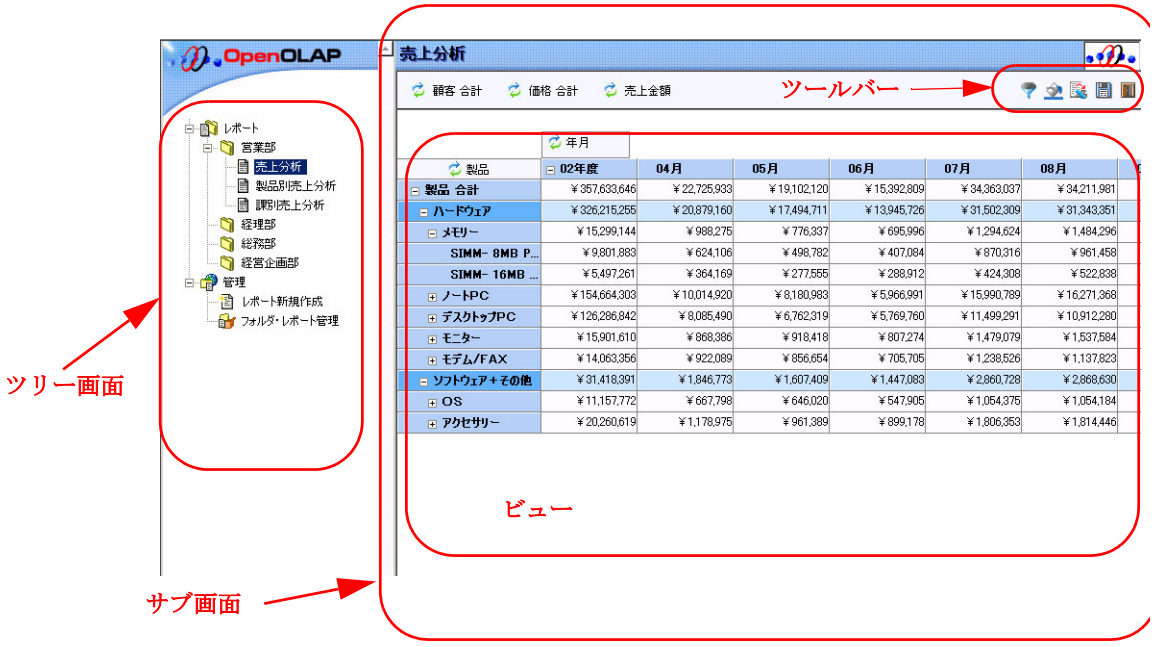
システム管理者は、レポート検索を効率的にするフォルダを作成したり、レポートをフォルダに割り当て直すなど、エクスプローラ風の操作でフォルダとレポートを管理することができます。



1.2　OpenOLAP Viewer の画面構成

1.2.1　OpenOLAP Viewer の画面構成

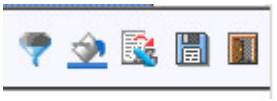
OpenOLAP Viewer の各個所の名称は以下のとおりです。



ツリー画面	レポートや管理メニューを選択することができます。
サブ画面	レポートやレポート新規作成、フォルダ管理などの画面を表示します。
ツールバー	レポート画面で表示されます。レポートに対して実行できるボタンです。
ビュー	レポートを表示します。

1.2.2　ツールバー

OpenOLAP にはデータの選択や色設定のためのツールバーが用意されています。

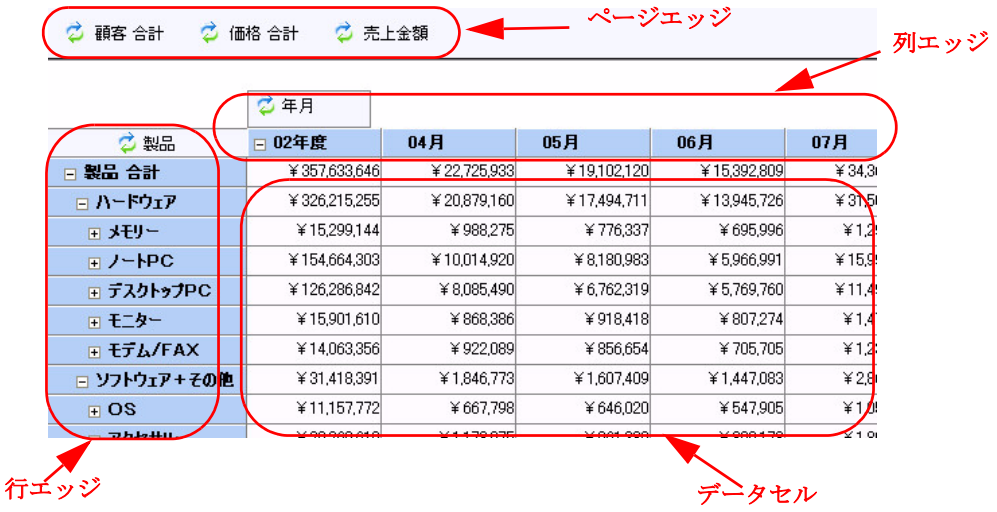


ｱｲｺﾝ	ボタン名	説明
	セレクタ	ディメンションやメジャーの値からレポートに表示する項目を選択することができます。
	色の塗りつぶし	レポートのセルの背景色を指定することができます。
	エクスポート	レポートを CSV 形式または Excel2002 形式（XML スプレッドシート）でエクスポートすることができます。

ｱｲｺﾝ	ボタン名	説明
	保存	参照レポートのディメンション、メジャーのレイアウト変更や色の塗りつぶし設定、セレクタ設定などの変更を保存することができます。 ＊ 管理者権限を持つユーザーのみ表示されます。
	ログアウト	OpenOLAP Viewer からログアウトします。

1.2.3　ビュー

ビューの各個所の名称は以下のとおりです。



行エッジ	レポートの行データが表示されている部分
列エッジ	レポートの列データが表示されている部分
ページエッジ	レポートのページデータが表示されている部分
データセル	レポートのデータ部分

行エッジ、列エッジ、ページエッジ内に配置されているレポートの分析項目のことを「**ディメンション**」ディメンションの中の値を「**メンバー**」、データセルに入っている数値のことを「**メジャー**」といいます。

1.2.4　使用できない文字列

OpenOLAP Viewer のレポート名、フォルダ名、セレクタの検索文字列には以下の 5 種類の文字列を入力することはできません。入力すると、丸囲み文字以外はエラーメッセージが表示され、丸囲み文字は登録後再表示すると文字化けします。

丸囲み文字（例：①、②など）、「<」、「>」、「&」、「’」

2
起動と終了

OpenOLAP Viewer の起動と終了の方法を説明します。

この章は以下の通り構成されています。

- OpenOLAP Viewer へのログイン
- OpenOLAP Viewer からのログアウト

2.1 OpenOLAP Viewer へのログイン

OpenOLAP Viewer にログインするために、事前に次の情報をシステム管理者から入手しておきます。

- ユーザー名とパスワード
- OpenOLAP Viewer の URL

1. インターネットブラウザを起動します。
2. OpenOLAP Viewer ログイン画面の URL を指定します。

3. ユーザー名とパスワードを入力して、[ログイン] ボタンをクリックします。OpenOLAP Viewer が起動し、ホーム画面が表示されます。

メモ： [クリア] ボタンをクリックすると、ユーザー名とパスワードがクリアされます。

2.2 OpenOLAP Viewer からのログアウト

OpenOLAP Viewer からログアウトするには、ツールバーの［ログアウト］ボタンをクリックします。

また、何も操作しないままシステム管理者の設定するアイドル時間を過ぎると、セッションが終了した旨のメッセージ画面が表示されます。この場合、再度ログインしなおしてください。

3

レポートの参照

管理者によって作成されたレポートは、インターネットブラウザを使用して閲覧することができます。この章では、レポートの閲覧やディメンションの操作など、効率的にレポートを分析する方法について説明します。

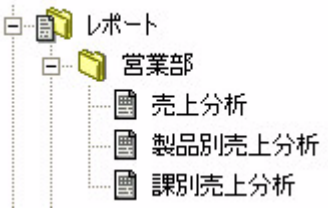
この章は以下のとおり構成されています。

- レポートの参照
- ディメンションの操作
- ドリル操作
- セレクタの利用
- データセルの色設定
- 幅、高さの調整
- エクスポート

3.1　レポートの参照

管理者によって作成されたレポートをインターネットブラウザで参照します。

1. ツリー画面で参照したいレポートが格納されているフォルダの「 ⊞ 」アイコンをクリックして、フォルダをオープンします。レポートの一覧が表示されます。



2. 参照したいレポート名をクリックします。サブ画面に選択したレポートが表示されます。

3.2　ディメンションの操作

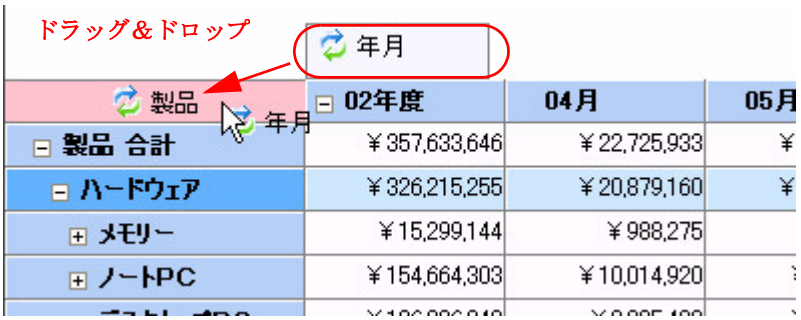
ディメンションやメジャーを操作してレポートの構成を変更することができます。ディメンションやメジャー（列や行、ページ）を入れ替えることで、様々な情報分析が可能となります。

ここでは、ディメンションの操作について説明しますが、メジャーも同様の操作を行うことができます。

3.2.1　ディメンションの入れ替え

エッジ内にあるディメンションを別のエッジのディメンションと入れ替えることができます。

1. 入れ替えたいディメンションの［移動］アイコン を、入れ替え先のディメンションの上までドラッグします。

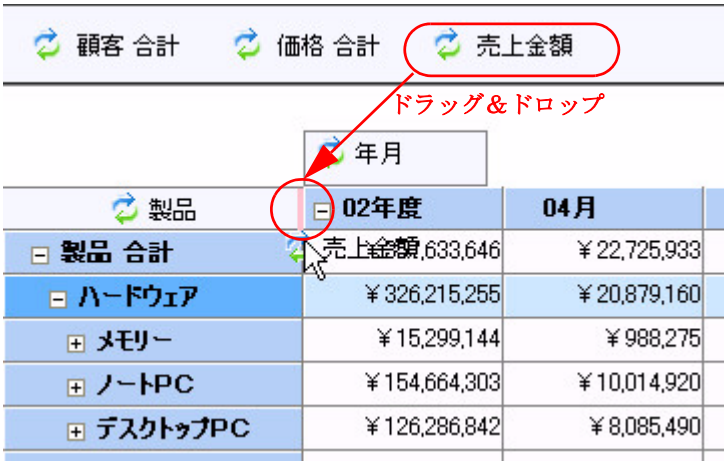


2. ディメンションが入れ替わります。

3.2.2　ディメンションの移動

エッジ内にあるディメンションを別のエッジに移動させることができます。

1. 移動させたいディメンションを移動先のエッジまでドラッグします。



注記：　移動先ディメンションの上でドロップするのではなく、移動先ディメンションの前（あるいは後ろ）がハイライトになった状態でドロップしてください。

注記：　列エッジ、行エッジとも表示できるディメンションまたはメジャーは 3 段（3 ディメンション or メジャー）までです。4 段目以降はディメンションまたはメジャーを追加できません。

注記：　列エッジ、行エッジとも、ディメンションまたはメジャー数を 0 にすることはできません。

注記：　列エッジ、行エッジにディメンションまたはメジャーを追加したときに以下の条件に達する場合は移動ができなくなります。

- 列エッジが 500 列以上
- 行エッジが 2,000 行以上
- データセル数が 20,000 個以上

2. ディメンションが移動します。

3.3　ドリル操作

レポートの行または列に表示されている項目に「 ⊞ 」アイコンまたは「 ⊟ 」アイコンがついている場合、そのデータはドリル操作をすることができます。ドリル操作には二種類あります。

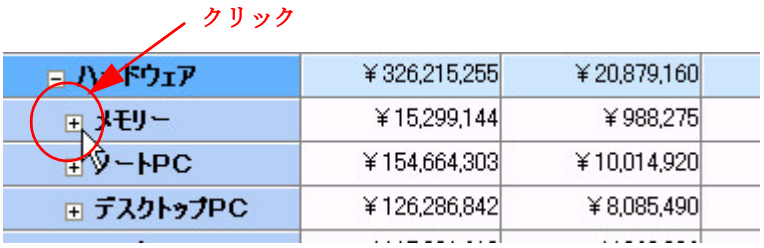
ドリルダウン　省略されている下位のデータを表示させることができます。

ドリルアップ　展開されている下位のデータを非表示にすることができます。

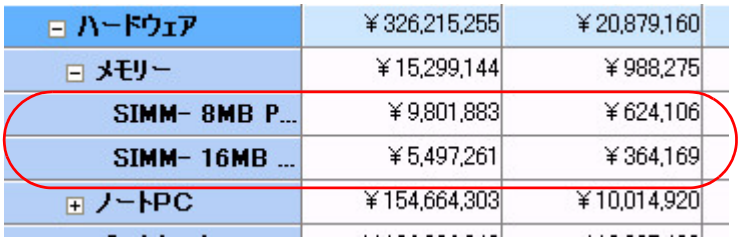
ドリル操作をすることで、データをまとめて見たり詳細を表示して見たりすることができます。

3.3.1　ドリルダウン

1. 詳細情報を表示したい項目の「 ⊞ 」アイコンをクリックします。

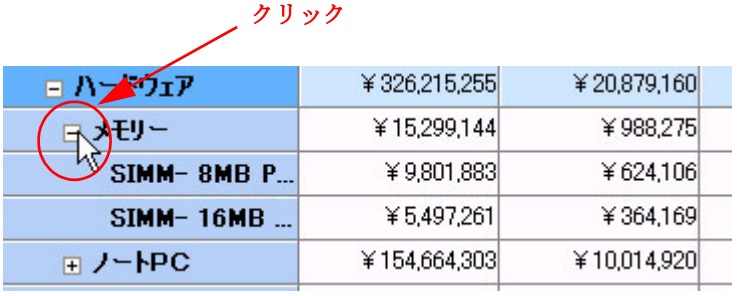


2. クリックした項目が展開され、詳細情報が表示されます。



3.3.2　ドリルアップ

1. 省略表示したい項目の「 ⊟ 」アイコンをクリックします。



2. クリックした項目が省略表示となります。

ハードウェア	￥326,215,255	￥20,879,160
メモリー	￥15,299,144	￥988,275
ノートPC	￥154,664,303	￥10,014,920
デスクトップPC	￥126,286,842	￥8,085,490

3.4 セレクタの利用

［セレクタ］を利用することによって、レポートに使用されているディメンションやメジャーをユーザー側で自由に選択して必要な項目だけをレポートに表示させ、分析することができるようになります。

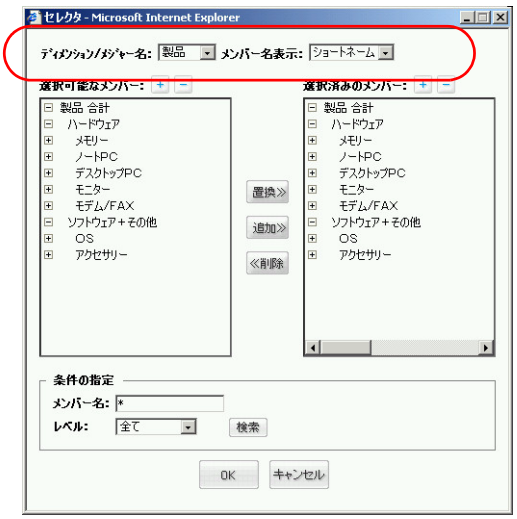
3.4.1 ディメンションのメンバー選択

3.4.1.1 リストからメンバーを選択する

指定したディメンションメンバーの一覧から、レポートで必要とする項目を選択していくことができます。また、選択を解除することもできます。

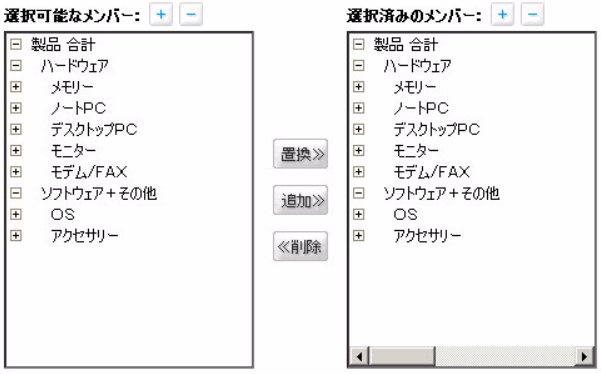
1. ツールバーの［セレクタ］ボタンをクリックします。

2. ［ディメンション / メジャー名］リストボックスから選択対象とするディメンションを選択します。［ディメンション / メジャー名］リストボックスの右隣りに［メンバー名表示］リストボックスが表示されます。



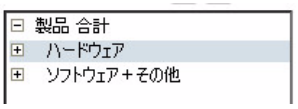
3. ［メンバー名表示］リストボックスからディメンションメンバーをロングネームで表示するか、ショートネームで表示するかを選択します。

4. ［選択可能なメンバー］リストボックスにはすべてのディメンションメンバーが、［選択済みのメンバー］リストボックスには、現在レポートに表示されているメンバーが表示されます。



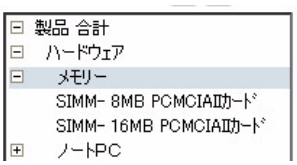
メモ： メンバーが階層構造になっている場合、「 ⊞ 」アイコンをクリックして子レベルの表示、「 ⊟ 」アイコンをクリックして子レベルの非表示を切り替えることができます。
また、［折り畳み］ボタンをクリックして全子レベルの非表示、［展開］」ボタンをクリックして全子レベルの表示ができます。

5. メンバーを［選択可能なメンバー］リストボックスまたは［選択済みのメンバー］リストボックスから選択します。

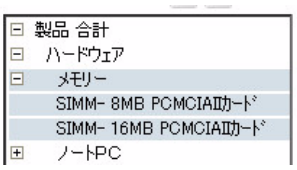


「 ⊞ 」アイコンがついている親メンバーを 1 回クリックすると、親メンバーと子メンバーすべてが選択されます。

もう 1 度クリックすると、親メンバーと子メンバーすべての選択が解除されます。



「 ⊟ 」アイコンがついている親メンバーを 1 回クリックすると、親メンバーのみが選択されます。

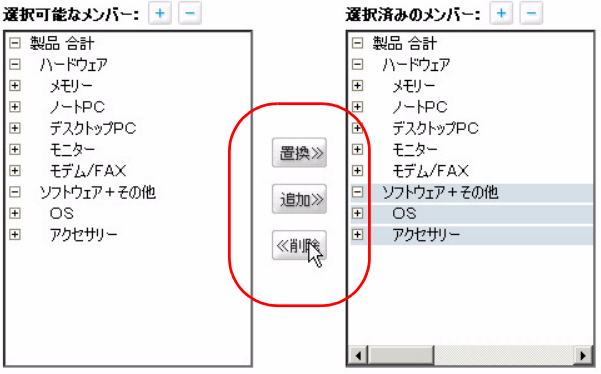


「 ⊟ 」アイコンがついている選択済みの親メンバーをもう 1 度クリックすると、親メンバーと子メンバーが選択されます。

さらに親メンバーをクリックすると、親メンバーと子メンバーすべての選択が解除されます。

メモ： Ctrl キーを押してメンバーを 1 つずつ選択したり、Shift キーを押して連続して選択することもできます。

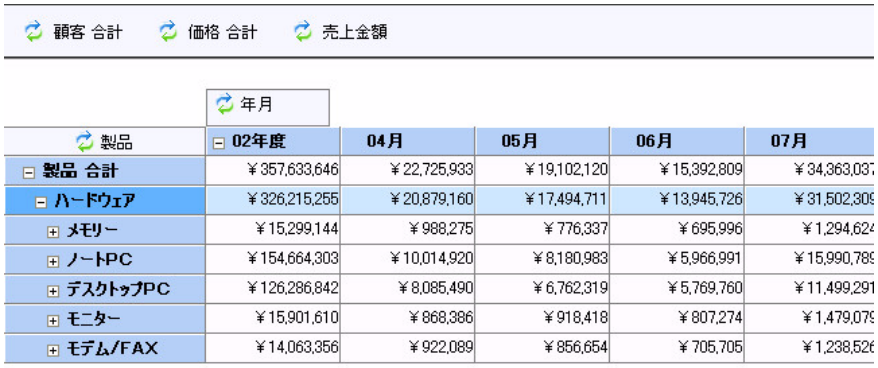
6. アクションボタンをクリックします。



ボタン名	アクション
置換	［選択済みのメンバー］リストボックスの全メンバーを［選択可能なメンバー］リストボックスで選択したメンバーで置き換えます。
追加	［選択済みのメンバー］リストボックスに［選択可能なメンバー］リストボックスで選択したメンバーを追加します。
削除	［選択済みのメンバー］リストボックスから選択したメンバーを削除します。

注記： ［選択可能なメンバー / 選択済みのメンバー］リストボックスでメンバーを選択せずにアクションボタンをクリックしても何も動作しません。メンバーを選択してからアクションボタンをクリックしてください。

7. ［選択済みのメンバー］リストボックスのメンバーを適切なドリル状態に設定します。レポートには［選択済みのメンバー］リストボックスのドリル状態が反映されます。
8. ［OK］ボタンをクリックします。選択されたメンバーだけがレポートに適用されます。



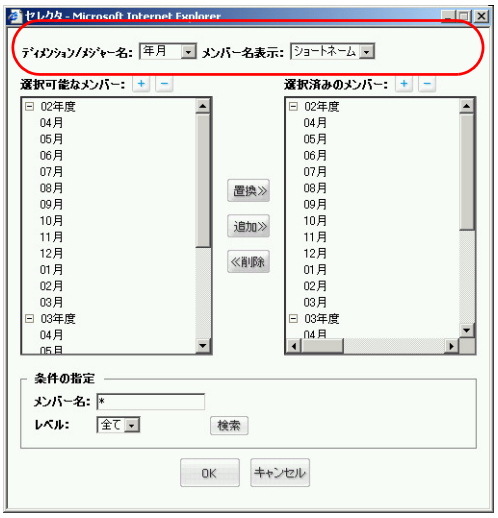
3.4.1.2 レベルでメンバーを選択する

ディメンションのレベルを利用した選択方法です。指定したレベルに属するディメンションメンバーのみレポートに表示させることができます。

例えば、時間ディメンションが「年」と「月」の２つのレベルから構成されている場合、「月」のレベルだけレポートに使用し、「年」のレベルを使用しない、という設定をすることができます。

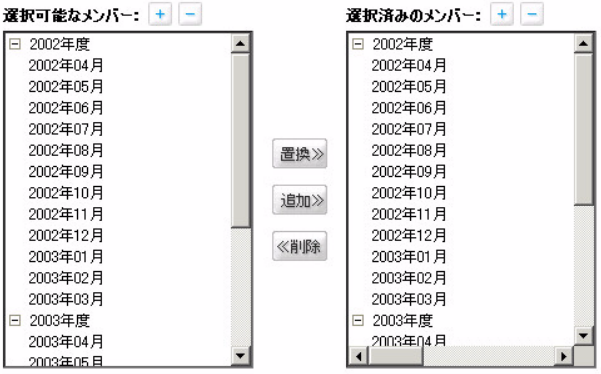
1. ツールバーの［セレクタ］ボタンをクリックします。

2. ［ディメンション / メジャー名］リストボックスから選択対象とするディメンションを選択します。［ディメンション / メジャー名］リストボックスの右隣りに［メンバー名表示］リストボックスが表示されます。



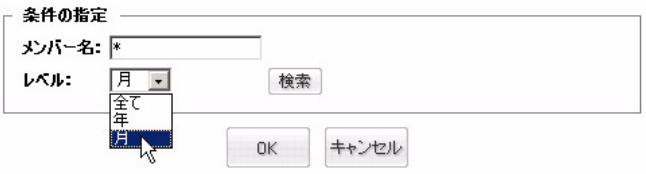
3. ［メンバー名表示］リストボックスからディメンションメンバーをロングネームで表示するか、ショートネームで表示するかを選択します。

4. ［選択可能なメンバー］リストボックスにはすべてのディメンションメンバーが、［選択済みのメンバー］リストボックスには、現在レポートに表示されているメンバーが表示されます。

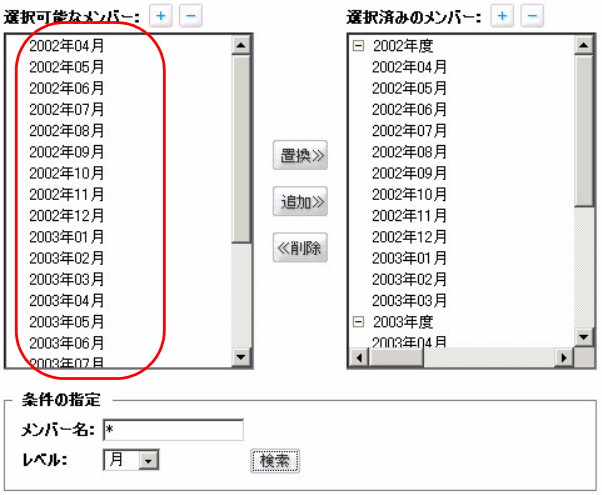


メモ： メンバーが階層構造になっている場合、「 ⊞ 」アイコンをクリックして子レベルの表示、「 ⊟ 」アイコンをクリックして子レベルの非表示を切り替えることができます。
また、［折り畳み］ボタンをクリックして全子レベルの非表示、［展開］」ボタンをクリックして全子レベルの表示ができます。

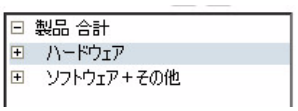
5. ［条件の指定］エリアの［レベル］リストボックスからレポートに使用するレベルを選択して、［検索］ボタンをクリックします。



6. ［選択可能なメンバー］リストボックスに指定されたレベルに属するメンバーのみが表示されます。

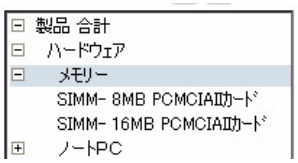


7. メンバーを［選択可能なメンバー］リストボックスまたは［選択済みのメンバー］リストボックスから選択します。

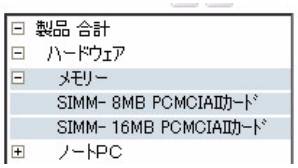


「 ⊞ 」アイコンがついている親メンバーを 1 回クリックすると、親メンバーと子メンバーすべてが選択されます。

もう 1 度クリックすると、親メンバーと子メンバーすべての選択が解除されます。



「 ⊟ 」アイコンがついている親メンバーを 1 回クリックすると、親メンバーのみが選択されます。

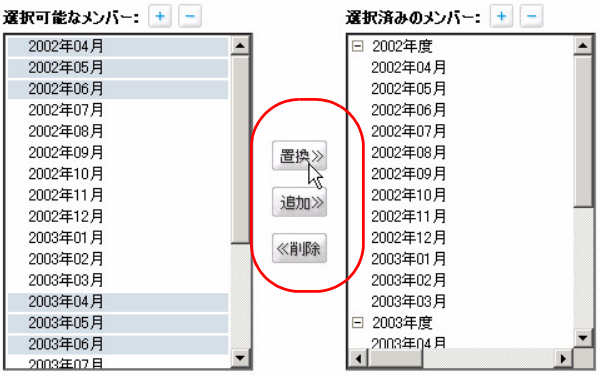


「 ⊟ 」アイコンがついている選択済みの親メンバーをもう 1 度クリックすると、親メンバーと子メンバーが選択されます。

さらに親メンバーをクリックすると、親メンバーと子メンバーすべての選択が解除されます。

メモ： Ctrl キーを押してメンバーを 1 つずつ選択したり、Shift キーを押して連続して選択することもできます。

8. アクションボタンをクリックします。

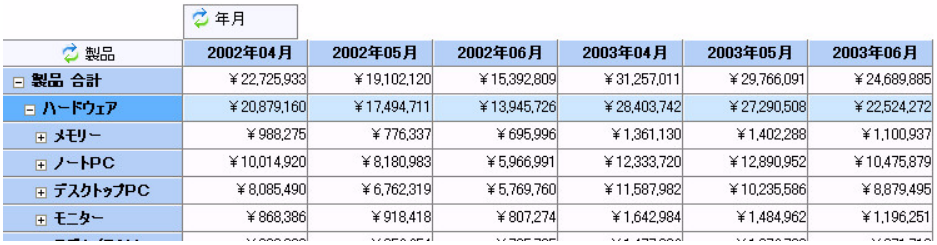


ボタン名	アクション
置換	［選択済みのメンバー］リストボックスの全メンバーを［選択可能なメンバー］リストボックスで選択したメンバーで置き換えます。
追加	［選択済みのメンバー］リストボックスに［選択可能なメンバー］リストボックスで選択したメンバーを追加します。
削除	［選択済みのメンバー］リストボックスから選択したメンバーを削除ます。

注記： ［選択可能なメンバー / 選択済みのメンバー］リストボックスでメンバーを選択せずにアクションボタンをクリックしても何も動作しません。メンバーを選択してからアクションボタンをクリックしてください。

9. ［選択済みのメンバー］リストボックスのメンバーを適切なドリル状態に設定します。レポートには［選択済みのメンバー］リストボックスのドリル状態が反映されます。

10. ［OK］ボタンをクリックします。選択されたメンバーだけがレポートに適用されます。



年月

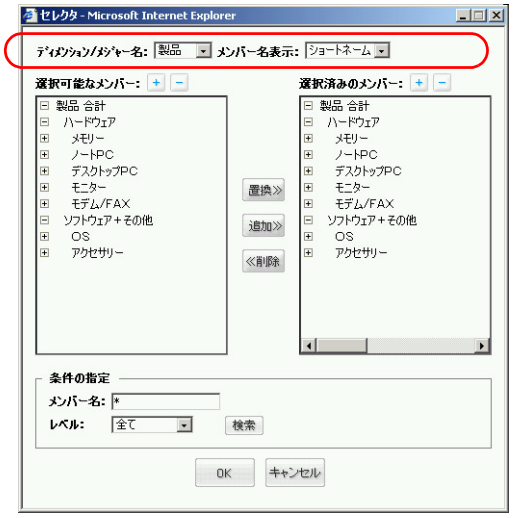
製品	2002年04月	2002年05月	2002年06月	2003年04月	2003年05月	2003年06月
製品 合計	￥22,725,933	￥19,102,120	￥15,392,809	￥31,257,011	￥29,766,091	￥24,689,885
ハードウェア	￥20,879,160	￥17,494,711	￥13,945,726	￥28,403,742	￥27,290,508	￥22,524,272
メモリー	￥988,275	￥776,337	￥695,996	￥1,361,130	￥1,402,288	￥1,100,937
ノートPC	￥10,014,920	￥8,180,983	￥5,966,991	￥12,333,720	￥12,890,952	￥10,475,879
デスクトップPC	￥8,085,490	￥6,762,319	￥5,769,760	￥11,587,982	￥10,235,586	￥8,879,495
モニター	￥868,386	￥918,418	￥807,274	￥1,642,984	￥1,484,962	￥1,196,251

3.4.1.3 マッチするメンバーを選択する

指定した文字列と一致するディメンションメンバーを選択します。

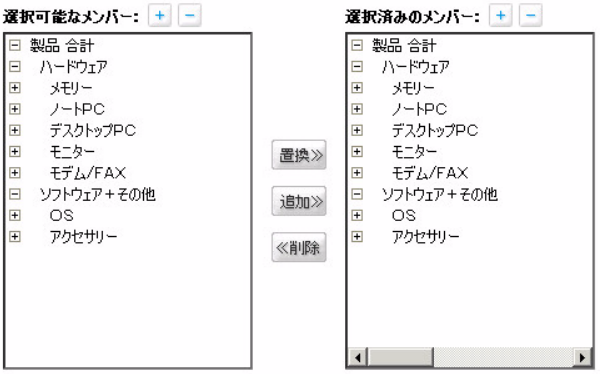
1. ツールバーの［セレクタ］ボタンをクリックします。

2. ［ディメンション / メジャー名］リストボックスから選択対象とするディメンションを選択します。［ディメンション / メジャー名］リストボックスの右隣りに［メンバー名表示］リストボックスが表示されます。



3. ［メンバー名表示］リストボックスからディメンションメンバーをロングネームで表示するか、ショートネームで表示するかを選択します。

4. ［選択可能なメンバー］リストボックスにはすべてのディメンションメンバーが、［選択済みのメンバー］リストボックスには、現在レポートに表示されているメンバーが表示されます。

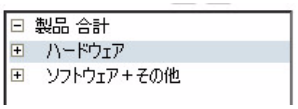


メモ： メンバーが階層構造になっている場合、「 ⊞ 」アイコンをクリックして子レベルの表示、「 ⊟ 」アイコンをクリックして子レベルの非表示を切り替えることができます。
また、［折り畳み］ボタンをクリックして全子レベルの非表示、［展開］」ボタンをクリックして全子レベルの表示ができます。

5. ［条件の指定］エリアの［メンバー名］ボックスに文字列を入力して、［検索］ボタンをクリックします。

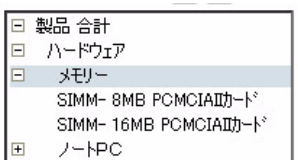
メモ： ワイルドカード文字列として、「*」（アスタリスク→複数文字に対応）、「_」（アンダーバー→ 1 文字に対応）の 2 種類を使用できます。

6. ［選択可能なメンバー］リストボックスに指定された文字列に一致するメンバーのみが表示されます。メンバーを［選択可能なメンバー］リストボックスまたは［選択済みのメンバー］リストボックスから選択します。

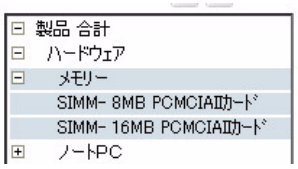


「 ⊞ 」アイコンがついている親メンバーを 1 回クリックすると、親メンバーと子メンバーすべてが選択されます。

もう 1 度クリックすると、親メンバーと子メンバーすべての選択が解除されます。



「 ⊟ 」アイコンがついている親メンバーを 1 回クリックすると、親メンバーのみが選択されます。

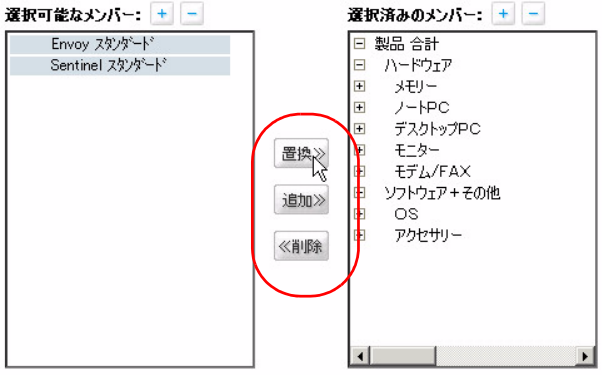


「 ⊟ 」アイコンがついている選択済みの親メンバーをもう 1 度クリックすると、親メンバーと子メンバーが選択されます。

さらに親メンバーをクリックすると、親メンバーと子メンバーすべての選択が解除されます。

メモ： Ctrl キーを押してメンバーを 1 つずつ選択したり、Shift キーを押して連続して選択することもできます。

7. アクションボタンをクリックします。



ボタン名	アクション
置換	［選択済みのメンバー］リストボックスの全メンバーを［選択可能なメンバー］リストボックスで選択したメンバーで置き換えます。
追加	［選択済みのメンバー］リストボックスに［選択可能なメンバー］リストボックスで選択したメンバーを追加します。
削除	［選択済みのメンバー］リストボックスから選択したメンバーを削除します。

注記： ［選択可能なメンバー / 選択済みのメンバー］リストボックスでメンバーを選択せずにアクションボタンをクリックしても何も動作しません。メンバーを選択してからアクションボタンをクリックしてください。

8. ［選択済みのメンバー］リストボックスのメンバーを適切なドリル状態に設定します。レポートには［選択済みのメンバー］リストボックスのドリル状態が反映されます。
9. ［OK］ボタンをクリックします。選択されたメンバーだけがレポートに適用されます。

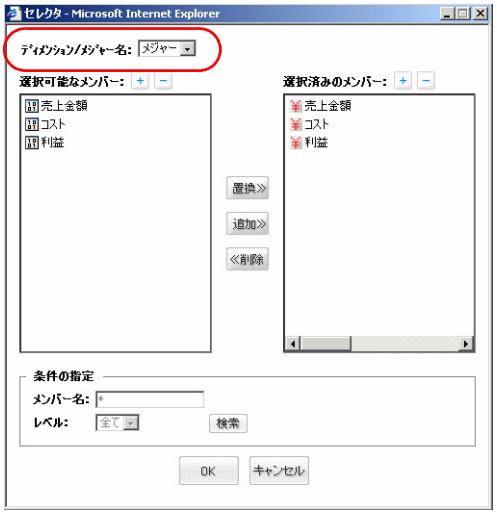
	年月			
製品	02年度	04月	05月	06月
Envoy ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ	￥126,511,113	￥7,934,435	￥6,972,721	
Sentinel ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ	￥91,763,827	￥5,788,845	￥4,935,023	

3.4.2　メジャーの選択

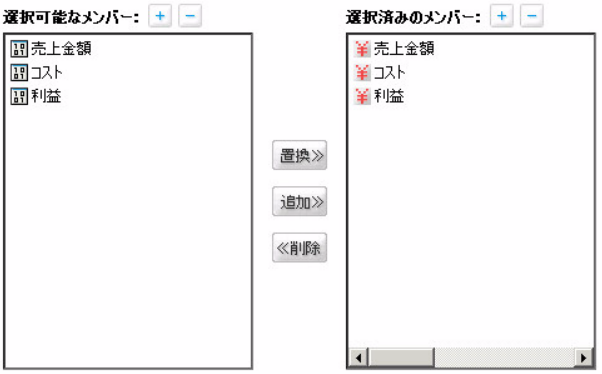
メジャーを選択します。

1. ツールバーの［セレクタ］ボタンをクリックします。

2. ［ディメンション / メジャー名］リストボックスから「メジャー」を選択します。



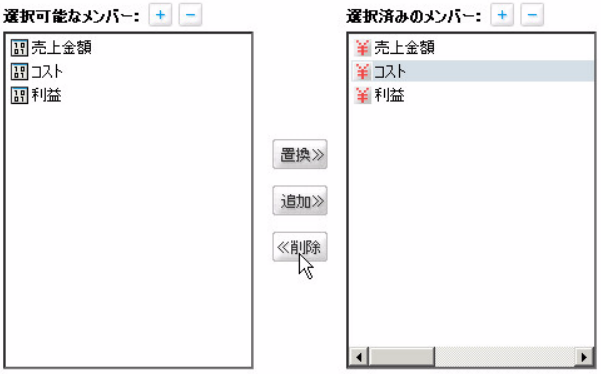
3. ［選択可能なメジャー］リストボックスにはすべてのメジャーが、［選択済みのメジャー］リストボックスには、現在レポートに表示されているメジャーが表示されます。



4. レポートに使用するメジャーを［選択可能なメジャー］リストボックスまたは［選択済みのメジャー］リストボックスから選択します。

   メモ： Ctrl キーを押してメンバーを 1 つずつ選択したり、Shift キーを押して連続して選択することもできます。

5. アクションボタンをクリックします。

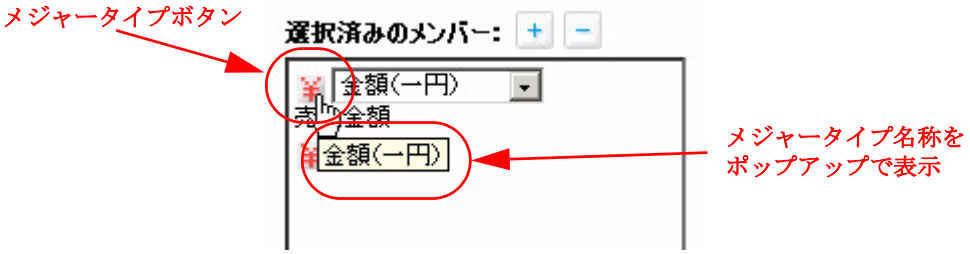


ボタン名	アクション
置換	［選択済みのメジャー］リストボックスの全メジャーを［選択可能なメジャー］リストボックスで選択したメジャーで置き換えます。
追加	［選択済みのメジャー］リストボックスに［選択可能なメジャー］リストボックスで選択したメジャーを追加します。
削除	［選択済みのメジャー］リストボックスから選択したメジャーを削除します。

   注記： ［選択可能なメジャー / 選択済みのメジャー］リストボックスでメジャーを選択せずにアクションボタンをクリックしても何も動作しません。メジャーを選択してからアクションボタンをクリックしてください。

6. ［選択済みのメジャー］リストボックスに表示されているメジャーの［メジャータイプ］ボタンをクリックして、［メジャータイプ］リストボック

スを表示し、メジャーの表示形式を選択します。メジャータイプは以下のとおりです。

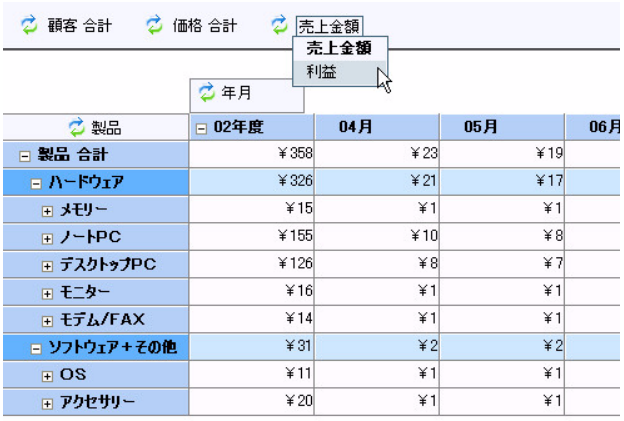


アイコン	メジャータイプ	説明	例
	金額（一円）	¥ 記号とカンマ区切りで表示する（単位：一円）。	¥123, 456, 789
	金額（千円）	¥ 記号とカンマ区切りで表示する（単位：千円）。	¥123, 456
	金額（百万円）	¥ 記号とカンマ区切りで表示する（単位：百万円）。	¥123
	カンマあり（一）	三桁ごとのカンマ区切りで表示する（単位：一）。	123, 456, 789
	カンマあり（千）	三桁ごとのカンマ区切りで表示する（単位：千）。	123, 456
	カンマあり（百万）	三桁ごとのカンマ区切りで表示する（単位：百万）。	123
	設定なし（一）	書式設定なしで表示する（単位：一）。	123456789
	設定なし（千）	書式設定なしで表示する（単位：千）。	123456
	設定なし（百万）	書式設定なしで表示する（単位：百万）。	123
	割合	割合（パーセント）表示する。	56%

注記： どの表示形式でも表示単位以下の端数は切り捨てられます。

メモ： ［メジャータイプ］ボタン上にマウスを移動させると、メジャータイプの名称をポップアップで表示します。

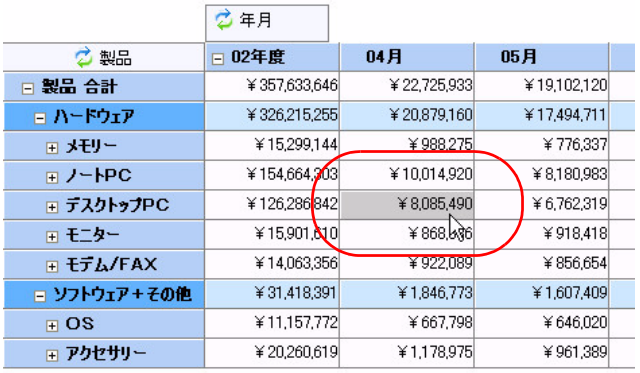
7. ［OK］ボタンをクリックします。選択されたメジャーだけがレポートに適用されます。



3.5　データセルの色設定

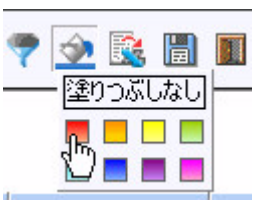
ツールバーの［塗りつぶしの色］ボタンを利用して、注目したいデータセルの背景色を指定することができます。色設定を保存することはできませんが、Excel2002 形式でエクスポートすると、色設定もデータと合わせて出力することができます。

1. 背景色を塗りつぶしたいデータセルを選択します。



メモ：　行単位、列単位でも選択することができます。

2. ツールバーの［塗りつぶしの色］ボタンをクリックして、塗りつぶしたい色をクリックします。



3. データセルが塗りつぶされます。

年月			
製品	02年度	04月	05月
製品 合計	￥357,633,646	￥22,725,933	￥19,102,120
ハードウェア	￥326,215,255	￥20,879,160	￥17,494,711
メモリー	￥15,299,144	￥988,275	￥776,337
ノートPC	￥154,664,303	￥10,014,920	￥8,180,983
デスクトップPC	￥126,286,842	￥8,085,490	￥6,762,319
モニター	￥15,901,610	￥868,386	￥918,418
モデム/FAX	￥14,063,356	￥922,089	￥856,654
ソフトウェア＋その他	￥31,418,391	￥1,846,773	￥1,607,409
OS	￥11,157,772	￥667,798	￥646,020
アクセサリー	￥20,260,619	￥1,178,975	￥961,389

メモ： 行または列を選択した場合、行タイトルまたは列タイトルの色は［色］メニューで選択した色よりも濃い色で塗りつぶされます。

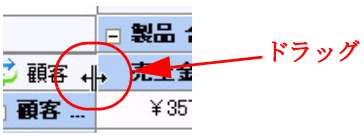
年月			
製品	02年度	04月	05月
製品 合計	￥357,633,646	￥22,725,933	￥19,102,120
ハードウェア	￥326,215,255	￥20,879,160	￥17,494,711
メモリー	￥15,299,144	￥988,275	￥776,337
ノートPC	￥154,664,303	￥10,014,920	￥8,180,983
デスクトップPC	￥126,286,842	￥8,085,490	￥6,762,319
モニター	￥15,901,610	￥868,386	￥918,418
モデム/FAX	￥14,063,356	￥922,089	￥856,654
ソフトウェア＋その他	￥31,418,391	￥1,846,773	￥1,607,409
OS	￥11,157,772	￥667,798	￥646,020
アクセサリー	￥20,260,619	￥1,178,975	￥961,389

3.6　幅、高さの調整

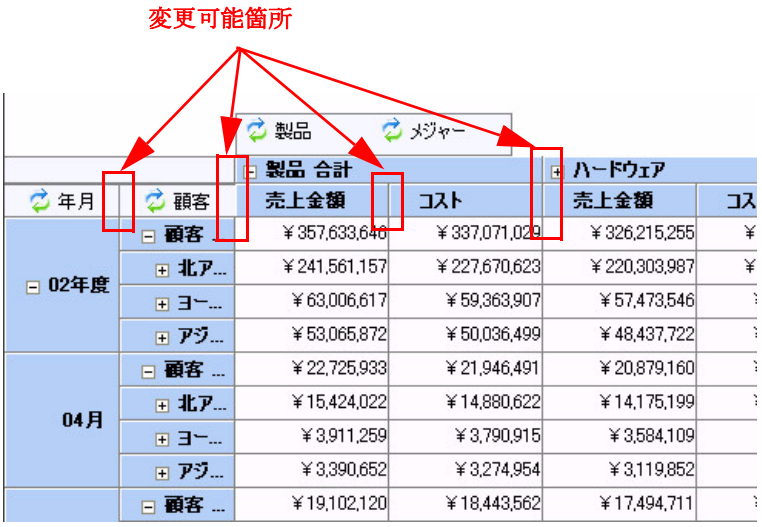
レポートの列幅、行の高さをマウスのドラッグで調整することができます。

3.6.1　列の幅を調整する

変更可能個所の縦線をドラッグして幅を調整します。



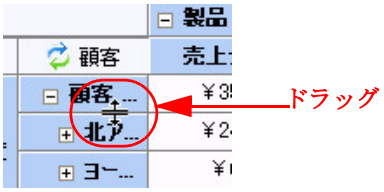
○変更可能個所



注記：　データセル間での幅の変更はできません。

3.6.2　行の高さを調整する

変更可能個所の横線をドラッグして高さを調整します。



○変更可能個所

注記： データセル間での高さの変更はできません。

3.7 エクスポート

レポート情報（ページエッジ情報とクロステーブル）を CSV 形式または Excel2002 形式（XML スプレッドシート）でエクスポートできます。

Excel2002 形式では、レポートの罫線情報、塗りつぶしの色情報もデータとともに出力されます。

メモ： 出力形式はシステム管理者が設定します。

1. ツールバーの［エクスポート］ボタンをクリックします。

2. Microsoft Excel がインストールされている場合は、Microsoft Excel シートが別ウィンドウで表示されます。